

7 京都市 幼保小の架け橋プログラム手引き



京都市のすべての子どもたちのために
質の高い幼児教育と小学校教育の連携・接続
の実現!!



京都市の全ての小学校区で
架け橋期の保育・教育の充実に向けて
取組を推進するための手引書



架け橋プログラムの理念と京都市の方針
研究ブロックと実践研究校等の3ヶ年の成果と
具体的事例の発信

※「京都市 幼保小の架け橋プログラム 手引き」は、
右の二次元コードで、ご覧いただけます。



7 京都市 幼保小の架け橋プログラム手引き

『京都市 幼保小の架け橋プログラム手引き』の構成

理論編(p.3～p.30)

- 架け橋プログラムの意義と
京都市の現状と方針
- 架け橋プログラム方針 Q&A
- 京都市版フェーズ
- 具体的な進め方
- 年間計画モデル
- 小学校における連携・接続主任の役割
- 幼児教育と小学校教育のつながり
- 京都市「架け橋期のカリキュラム」例の解説
- 京都市「架け橋期のカリキュラム」例

実践編(p.31～p.102)

- 3研究ブロックの研究概要
【組織としての推進事例等】
- 幼児期の学びの芽生え
- スタートカリキュラム
- つながりのある保育・授業
- 子ども同士の交流
- 大人同士の交流
【保育・授業、合同研修会等の具体的事例】
- 参考資料
- 京都市架け橋会議の3年間の取組

架け橋プログラムの理念
組織的・持続的に推進するための方策

より具体的・参考事例の提示
具体事例を今後もグレードアップ

7 京都市 幼保小の架け橋プログラム手引き

京都市における幼保小の架け橋プログラムの方針 Q&A

- Q** いつから架け橋プログラムを始めればいいのですか？
- A** 京都市としては、令和7年4月から全市での実施を予定しています。全ての小学校で幼保との連携・接続に取り組みます。
- Q** 本校(小学校)は、どこの就学前施設と行えばいいですか？
- A** 連携・接続の範囲は、小学校区内を原則としています。小学校は、自校の校区内に所在する就学前施設と連携・接続を行います。就学前施設は、自校の所在地を校区に含む小学校(原則1校)と連携・接続を行います。
- Q** 本校の校区には、就学前施設がないのですが、どうすればいいですか？
- A** 中学校区内の他の小学校と相談して、連携・接続する対象の就学前施設を調整しても構いません。また、小中一貫教育との関係で、中学校区内の他の小学校と一緒に中学校区内の就学前施設と連携・接続を推進することも可能です。
- Q** 本校Aは小規模校で、校区内の多数の就学前施設との連携・接続は難しいです。どうすればいいですか？
- A** 校区内の就学前施設とまずは話し合いを行いましょう。例えば、子ども同士の交流については全ての施設と同じように行うのではなく、ある交流はB園と、別の交流はC園と行い、来年度は違う園と実施する。ただし、公開授業や公開保育など教育・保育の相互理解は全施設で行うなどの調整をすることもできると思います。
- Q** 本校は、これまでも校区外の就学前施設D園と連携を進めているのですが、どうすればいいですか？
- A** これからもD園と連携を続けても構いません。これまでのつながりを大切にしてください。ただし、D園の意向確認やD園の所在地の小学校との連絡・調整は行いましょう。
- Q** 本園は、上記の小規模A小学校区内にある保育園です。本園では、A小学校に入学するより、違うE小学校に入学する園児が多いです。どうすればいいですか？
- A** このような場合は、入学児童の多いE小学校とも相談しながら、E小学校と連携・接続することは可能です。まずは、小学校と就学前施設が話し合うことが一番大切です。

架け橋プログラムの基礎基本その1…まずは、連携・接続する園の確定

- 小学校の管理職(校長先生)がイニシアティブをとり、校区内の全ての就学前施設や近隣の小学校に連絡し、連携・接続する園を確定しましょう。
- 幼保小の管理職同士が、持続的に話し合える体制を構築しましょう。管理職の異動があっても、幼保小との関係が変わらない体制の構築が大切です。

- 5 -

つながりのある保育

「帽子取り」
～体を動かす楽しさを味わい、チームの仲間と協力、葛藤する～
5歳児 9月 体育科へ

ねらい 体を動かす心地よさを感じ、様々な感情体験をしたり、友達と協力したり、作戦を考えたりして、チームの仲間と心をつなげる楽しさを味わう。

小学校教育へのつながり ・先生対子どもで帽子を取る遊びを始め、体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わう。(様々な体の動きの経験)
・繰り返し遊ぶ中で子ども同士が遊び始め、遊びのルールができていく。(規範意識の芽生え)
・チームに分かれて遊んでいく中で、葛藤場面が出てきて、様々な感情を体験する。(気持ちの調整力、協同性)

実践内容 **遊び始め(先生対子ども)** 〈帽子取り〉
・相手チームの帽子を取る
・帽子を多く取ったチームの勝ち
・時には陣地あり、時には陣地なし
・2チーム⇒3チーム(巴戦)
・時には全員で実施、あるいは数人ずつ繰り返し
・ルールは、子どもの必要感からその都度話し合って決めていく。
(例:「転んだ園児の帽子は取らない」⇒「帽子を取らないようにわざと転んだ場合は取ってもよい」など、ルールが追加される)

様々な体の動きが出てくる
健康な心と体
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚
チームで力を合わせて取ろうとする。

作戦会議
前と後ろから狙った？
思考力の芽生え
言葉による伝え合い
負けちゃった、悔しいな
自立心
大丈夫! 相手チームをよく狙って!

保育を振り返って

思いきり体を動かす心地良さや様々な体を動かす楽しさを十分味わえる帽子取り。一人一人のめあてによって、新しい動きが引き出され、洗練され、自分のものにしていく。楽しいからもう一度やりたいと遊びが継続していく。また、その中で、スリル感やチームの仲間との思いの通い合いや協力、喜びや悔しさ等様々な感情を体験している。同じめあてをもち、力を合わせたり、思いを重ねたりする経験が積み重ねられている。

子ども同士の交流

生活科「京都御苑の交流からの授業・保育展開」
～秋の自然物を使っての遊びや遊びに使うものを作る～ 5歳児・1年生 11月

取組のねらい 5歳児: 御苑で集めた木の実や葉っぱなどを使って遊ぶことを1年生と一緒に楽しむ。
1年生: 5歳児を招待する「あそび大会」のために、秋の自然物を使った遊びを考え、工夫してコーナー作りをする。

取組のポイント ・オンラインで作品紹介の交流をした後、「幼稚園、保育園の友達と一緒に遊びたいね」「僕がつくったけん玉を見せてあげたいな」等の声が1年生から上がり、「あそび大会」に5歳児を招待することになった。
→自分たち(1年生)の願いを実現するために主体的に活動＝「あそび大会」への意欲
・本時までにどんぐりや松ぼっくり、枝や落ち葉等の素材に存分に時間をもち、紐やカップ、ポンド等子どもが使いやすい材料を用意した環境設定。
→子どもの必要感からの環境設定
・5歳児と1年生が、互いのつくったものを見せ合えるように、単元の始めから幼稚園とオンラインでつなぐ。→子ども同士の関わり、継続、活動のつながり

実践内容 単元「あきとともだち」の始めから幼保小のオンライン交流

パソコンの向こうの園児に説明中!
見てみて。こんな遊びを考えよう。
わたしたちは松ぼっくりでクリスマスツリーをつくったよ。

小学校の「あそび大会」に5歳児を招待する。1年生がつくった遊びのコーナーで1年生と一緒に遊ぶ授業

ぼくは、けん玉が1番楽しかったよ。
これは、クレープだよ。(お店やさんの品物紹介)

交流を振り返って

御苑での交流後からオンライン上ではあるが、5歳児が考えた遊びを1年生に紹介したり、1年生がつくったものを見たりして、ともに刺激を受けて日々、遊びが続き、1年生が発案した「あそび大会」への意欲につながった。「あそび大会」では、具体的につくったものを見て、5歳児は、より興味をもってコーナーで遊んだり、1年生にリードされたり、親しみや憧れの気持ちをもちながら楽しんでいた。1年生は、楽しんでもらいたい、作品を使ってもらいたいなど個々に考えて関わり、自分たちが開催した「あそび大会」を5歳児が楽しみ、喜んでくれている様子を見て、達成感や満足感、自信につながった。5歳児のためにという相手意識をもちながら取り組む様子に1年生の成長を感じた。

8 成果と課題（進捗状況）

幼保小連携・接続の進捗状況(フェーズ)

京都市 幼保小の架け橋プログラム手引き P8・9

フェーズ	フェーズ1 基盤づくり (10項目)	フェーズ2 連携・接続の実施 (11項目)	フェーズ3 連携・接続の充実 (8項目)	フェーズ4 以上 持続可能な連携・接続 (8項目)
体制づくりと情報共有	☐ 校園長が中心となり、連携・接続の対象園・学校を確定 (P.10) (Point1) ☐ (市立幼稚園・小学校)教育指導計画書に幼保小の連携・接続の具体的取組を記載 ☐ 幼保小連携・接続主任など、担当者の決定 ☐ 入学前の新1年生、または入学後の1年生の情報共有 (P.11) (Point2)	☐ 目指す子ども像などを共有するための架け橋ミーティング(合同会議)の設置・実施 (P.10) (Point4) ☐ 架け橋ミーティングにおいて、幼保小の取組に関する年間計画の作成 (P.10、16、17) ☐ 各校園の連携・接続主任などの担当者の役割の明確化と実践 (P.18、19) ☐ 自校園の教職員対象の「幼保小の連携・接続」に関する校園内研修の実施 (P.10) ☐ 幼保小間でより綿密な入学前後の1年生の情報共有の実施(保育・授業参観を通しての共有) (P.11)	☐ 目指す子ども像の具現化に向けた取組改善と年間計画の見直しのための架け橋ミーティングの実施 (P.10) (Point9) ☐ 幼保小の教員・保育者が気軽に話し合える機会の設定と仕組みの構築 ☐ 「幼保小の連携・接続」が、自校・園全体の取組となるための校園内研修の充実と仕組みの構築 (P.10)	☐ 架け橋プログラムの改善・充実のための架け橋ミーティングの定着・発展 (Point14) ☐ 「幼保小の連携・接続」が、持続的、発展的な取組となるための自校園の組織体制の構築 (Point14) ☐ 架け橋期のカリキュラム作成と検証・改善 (P.11) (参考:京都市架け橋期のカリキュラム例P.24～29) (Point16)
保育・教育の相互理解と質的向上	☐ ㊦半日入学の実施 ☐ ㊦スタートカリキュラムの実施 (Point3) ☐ 行事予定等の配布物の交流 ☐ 生活発表会など、幼保小の学校・園行事への教員・保育者の参加・参観	☐ ㊦5歳児がより安心感をもてる半日入学の実施 (P.13、62) (Point5) ☐ ㊦新入生(1年生)がより安心感をもてる入学式の実施 (P.13、63) (Point5) ☐ ㊦幼児期の育ちや学びをより意識し工夫したスタートカリキュラムの実施 (P.13、64～69) (Point6) ☐ スタートカリキュラムの保護者への発信 (P.13) ☐ 公開保育・公開授業の開催 (P.11) (Point7)	☐ 幼保小での保育内容・教育内容についての合同研修会の開催 (P.12、92～94) (Point10) ☐ スタートカリキュラムの就学前施設への公開と事後協議の実施 (P.13) ☐ 公開保育・公開授業の事後研修会を充実 (P.12、92～94) (Point11) ☐ 小学校との接続を意識した保育実践と幼児期の育ちや学びを意識した授業実践 (P.12、56～79) (Point12)	☐ スタートカリキュラムや普段の保育・授業の公開と事後協議など、幼保小が互いの保育・教育を理解するための合同研修会が定着し、持続的に改善・発展できる仕組みの構築 ☐ 子どもが主体的に学ぶ(遊ぶ)姿が見られる「主体的・対話的で深い学び」のある保育・授業への改善・実施 (P.12、56～79) (Point15)
子ども同士の交流の推進	☐ 運動会など、幼保小の学校・園行事への児童・幼児の参観・参加 ☐ 幼児と小学生との交流(学年は不問)の実施 (P.90、91)	☐ 子ども同士の交流(5歳児と1年生)の実施 (P.14) (Point8)	☐ 互恵性のある交流に向けての工夫 (P.14、80～89) (幼保小交流活動参観シート (P.97) の活用) (Point13)	☐ 互恵性のある子ども同士の交流に関する PDCAサイクルが確立し、持続的に改善・発展できる仕組みの構築 ☐ 互恵性のある子ども同士の交流だけでなく、子どもの自発的な交流が生まれる環境づくり (P.14) ☐ 自校園内、および幼保小全体で交流学習等について、改善や発展の方向性を共通認識

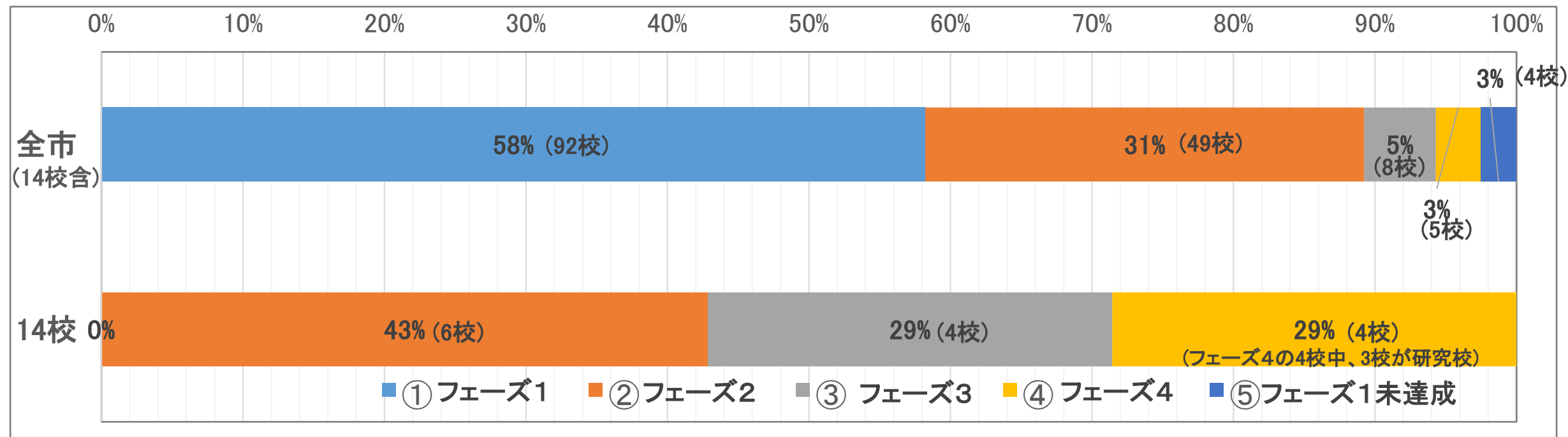
㊦…小学校で行う取組

Point●…幼保小の架け橋プログラムを進める4つのフェーズの中から、中核となる16の取組を厳選し、概要版にまとめています。

8 成果と課題（進捗状況）

幼保小連携・接続の進捗状況(フェーズ)

R6.12月現在



- ・全市の約90%の学校が、フェーズ1～フェーズ2。
- ・フェーズ3と4(13校)の約6割が、研究校と実践研究校(8校)。

- ・一部の学校では成果が上がっているものの、全市的に見ると未だ不十分
- ・全市立小学校での架け橋プログラム推進の必要性

8 成果と課題（取組内容）

京都市の架け橋プログラムに関する調査(R6.12月実施)

	R6年度の連携・接続の現状(複数選択)	7年度以降の方向性
[指定3年目] 研究校 (3校)	・①～⑱のほぼ全ての内容を3校が実施。 ・平均 17項目/18項目 の実施。 (R5時点ではほぼ全ての取組を実施) ⇒ 持続可能な連携・接続になるよう充実した取組を実践	「フェーズ4 より持続可能な連携・接続」 ⇒取組が停滞しないよう 中長期目標の設定が必要
フェーズ4		
[指定2年目] 実践研究校 (11校)	・①情報共有 ②半日入学 ③スタートカリキュラムの実施 ⑬5歳児と1年生の交流 ⑯学校行事への参観 は80%以上 ・③スタートカリキュラムの実施 ⑤日程調整 ⑦幼児期を意識した 授業実践 ⑫連携・接続の校内研修 ⑬5歳児と1年生の交流の 5つの取組が前年比10P以上増加 ⇒ R5年度より一段階進んだ幼保小の連携・接続の取組を実践	「フェーズ3 連携・接続の充実」 に向 けて 取組の充実 ⇒保育・教育の相互理解 をより進め、持続可能な 取組へ
フェーズ2～4		
京都市全体 (158校) (14校含)	①情報共有 ②半日入学 ③スタートカリキュラム ⑱配布物の交流 の順で多い。(99～65%) ⑬5歳児と1年生の交流 10P増加。⑬⑭を合わせて64% ⇒子ども同士の交流が増加 ・③スタートカリキュラム は、横這い(63%→65%) ⇒大きな課題 ⇒ 連携・接続の取組は微増⇒研究校・実践校以外の学校は横這い ⇒ 研究校・実践研究校との取組に大きな差	「フェーズ2 連携・接続の実施」 に向 けて 取組の推進 ⇒連携園との新たなコ ミュニティの構築と地域 実態に合った取組の実践
フェーズ0～4		

8 成果と課題（効果）

設問18 貴校では、どのような点から幼保小の連携・接続の効果を実感していますか。当てはまるものを全て選んでください。

14校 R6 幼保小の連携・接続の効果

① 接続する幼児教育施設の先生との関係性や交流の在り方の変化

② 自校の教員の意識改革

③ 自校の授業改善

④ 自校の子どもの生活や学びの様子の変容

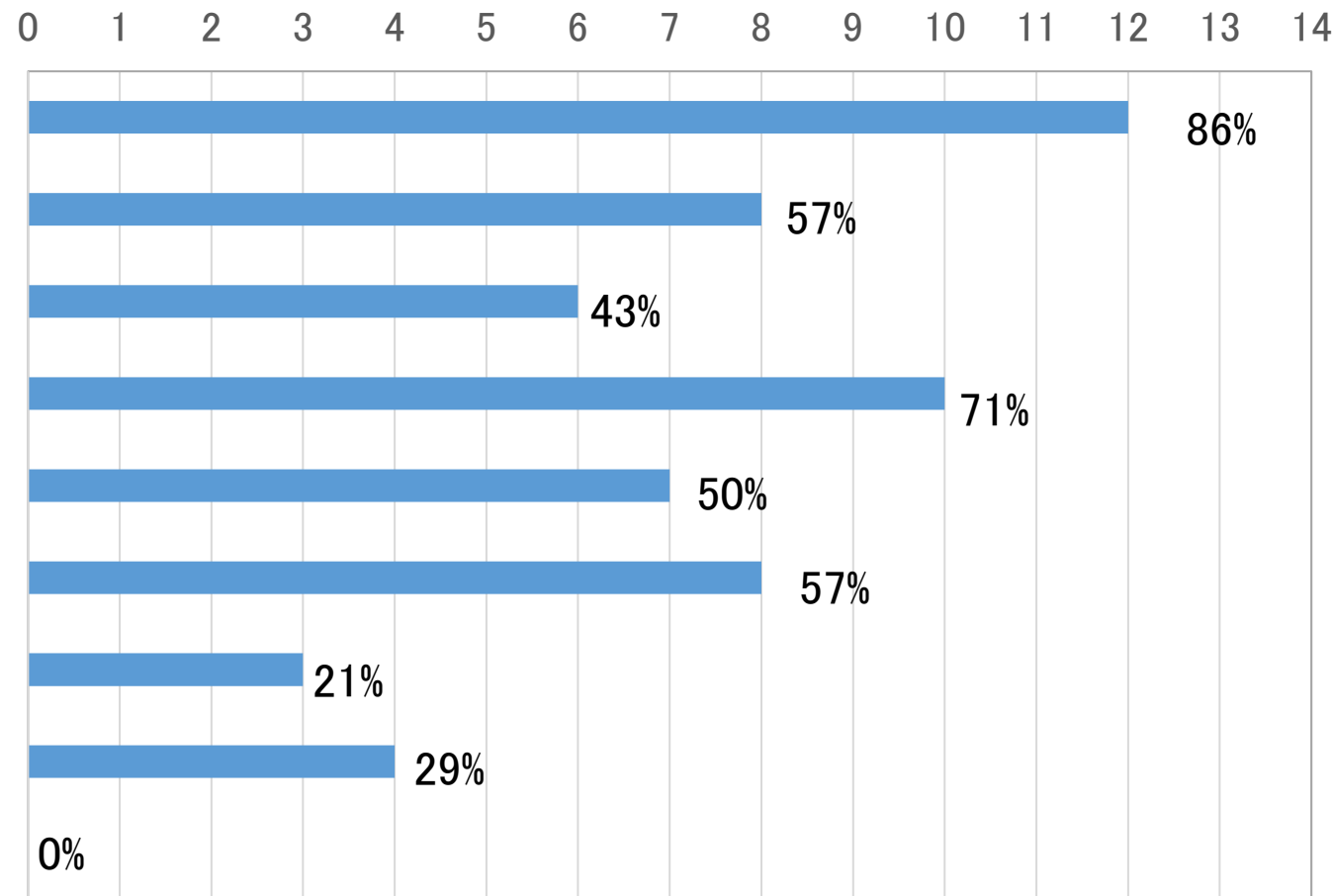
⑤ 円滑な学級経営のスタート（R6 追加項目）

⑥ 登校渋り(行き渋り)の児童数の減少（R6 追加項目）

⑦ 児童同士のトラブルの減少（R6 追加項目）

⑧ 保護者からの声

⑨ 効果を実感していない



- ・研究ブロック校、実践研究校の実践が、架け橋期の保育・教育にとって有意義なものであること(効果)を実感している。
- ・幼保小の新たなコミュニティの構築を大切にした取組になっている。

8 成果と課題（教員や子どもにとって良かったことや変容）

設問19 今年度の幼保小の連携・接続の取組を通して、教員にとって良かったことや変化はありましたか。当てはまるものを全て選んでください。

- | |
|--|
| ① 幼保小の教員・保育者のつながりができた。 |
| ② 互いの教育・保育の理解が深まった。 |
| ③ 幼児期の育ちを小学校教育に活かすことができた。 |
| ④ 架け橋期の発達を知り、授業の見直しなどの実践につながった。 |
| ⑤ 架け橋期の発達を知り、学級指導・生徒指導に活かすことができた。 |
| ⑥ 地域の子どもの実情や地域の幼保小の連携の実態が分かった。 |
| ⑦ 自校、または自学年等のカリキュラム改善につながった。（研究校:設定せず） |

設問20 今年度の幼保小の連携・接続の取組を通して、子どもにとって良かったことや変化はありましたか。当てはまるものを全て選んでください。

- | |
|--|
| ① 子どもが安心して登校し、小学校生活に適応することができた。 |
| ② 交流・連携により優しさや思いやりの気持ちを育むことができた。 |
| ③ 交流・連携により子ども自身が成長を自覚したり、自己肯定感を高め、自己発揮する姿が見られたりする場面があった。 |
| ④ 交流・連携により異年齢の子どもや友達とかわる力を育むことができた。 |
| ⑤ 交流・連携により子どもの学習意欲が高まった。 |
| ⑥ 架け橋期の発達に沿った教育が充実したことによって、主体的に小学校生活に取り組むようになった。 |

8 成果と課題（教員や子どもにとって良かったことや変容）

	教師にとって良かったこと	子どもにとって良かったこと
[指定3年目] 研究校 (3校)	・①教員のつながり ②互いの教育・保育の理解 ③幼児教育を活かす は、年々増加または横ばい。特に②は(80%)は高数値。 ・④授業の見直し ⑤学級経営・生徒指導への活用 は、結果としては前年からやや減少しているが、着実に取組は充実。	・①安心感と適応 は、横ばいだが約70%の高い数値。 ③成長の自覚、自己発揮 は、10Pの増加。 ⇒「架け橋の効果」の結果に反映。 特に、「行き渋り児童」の減少や子どもの変容、教員の意識改革 につながっている。
	⇒指定3年目を迎え、取組は充実している。R4からR5には、授業や取組が大きく見直され、その変容が際立った。が、R6の取組は前年(R5)と比較すると取組の大きな見直しは少なく、際立った変容が全ての教職員には感じにくくなっている。しかし、R4との比較では全ての項目が増加。 ⇒より持続可能な取組にするために、教育(保育)の質の向上に向けた中長期的展望の設定や、より組織的な取組にするための全校・全園体制や研究体制づくりが必要。	
[指定2年目] 実践研究校 (11校)	・全ての項目で、R5より回答率が増加。 ・③幼児教育を活かす ④授業の見直し は、20P以上増加。 ・①教員のつながり ②互いの教育・保育の理解 は、90%以上。 ⇒連携・接続の取組が進み、その成果を実感。 ⇒まず授業・保育改善に取組み、その後、持続可能な取組につなげることが重要。	・①安心感と適応 ②優しさや思いやりの気持ち ③成長の自覚、自己発揮 ④異年齢児童との関わる力 の4項目を、半数以上の学校が実感 ・①安心感と適応 は、前年比37P増加。 ・⑥主体的に取り組む姿 を3校が回答(R5は0校) ⇒実践校の取組が進んでいることが、「子どもの変容」からも見取ることができる。 ⇒「架け橋の効果」の結果に反映。(研究校同様)

9 全市実施に向けて今後の展望（持続可能な取組にするために）

全小学校区の取組

- 全ての小学校区で、幼保小の新たなコミュニティの形成が取組の第一歩。
- 全ての小学校で、スタートカリキュラムの取組内容(期間も含む)の充実・改善。
- 全市が、実践研究校を身近なモデルに、研究ブロックを最終的な目標として取組を推進。
 - ⇒理想的な進め方… 実践研究校の進め方⇒研究ブロック校の進め方
 - ⇒実践研究校の具体的事例以外に進め方(取組経過等)を発信。
 - ⇒研究ブロック・実践研究校での具体的な成果を発信し、必要感・重要感の向上を図る。
- 全ての幼保小で、主体的・意欲的に学ぶ(遊ぶ)ことができる保育・教育の創造(質の向上)を目指す。

自治体としての取組

- ・子ども若者はぐくみ局と教育委員会が連携し、取組検討会議(カリキュラムや自治体による支援施策等の検討)を実施
- ・幼保小の架け橋コーディネーターを希望する市立小学校や民間を含む幼児教育施設へ派遣
- ・幼保小の架け橋コーディネーターの育成…架け橋スーパーバイザーによる架け橋コーディネーターへの指導助言
 - ※架け橋スーパーバイザーは、大学教授等の有識者を想定
- ・実践を牽引する小学校等の研究指定の継続
- ・公立幼小の管理職悉皆研修の継続(幼児教育施設への動画配信の継続)
- ・保護者向け啓発講座の継続
- ・研究指定校の取組や市内外の参考事例等の発信
- ・学校園を対象としたアンケート等による状況把握
- ・幼保小連携・接続窓口一覧の配布(担当者変更に対応するため、毎年更新し発信)

おわりに

ご清聴 ありがとうございました

京都市幼保小架け橋シンポジウム

日 時: 令和7年2月14日(金) 9:30~17:00

(午前)

第1部 分科会 (公開保育・授業、研究報告)

会場 御所南小学校・下京雅小学校・竹田小学校 他

(午後)

第2部 全体会 会場 ロームシアター京都

実践発表 パネルディスカッション

特別講演 白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆 先生

アーカイブ配信視聴申込

【申込期間】

令和7年2月28日(金)
まで



【URL】

<https://forms.gle/Ti66fsd93DdBWzYG7>

当日申し込みは終了

(参考資料1) 御所南小ブロックの架け橋期のカリキュラム

「ひと・もの・ことを大切に未来に輝く子どもの育成」～ 感じ 考え 思考する そして論理的思考へ～ 御所南小ブロック

共通の視点	5 歳 児											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
目指す子どもの姿	遊びのおもしろさ、楽しさを感じながら好きなことを満足するまで楽しむ											
	自分と向き合って考える					友達と協力して考える			互いの考えを尊重し、共に考える			
	友達と協同して考えを広げ、深める											
	小学校に期待をもつ											
子どもたちの経験・遊び	◎園生活の中で自分の好きな遊びをみつけて、満足いくまで十分に取り組む			◎自分の思いに向き合い、試したり工夫したりする ◎友達の様々な思いに気づき、互いに思いを出し合って葛藤する		◎興味のあることをもとに(⑧)、好きな遊びを友達と一緒に楽しみ、アイデアを出し合って遊びを発展させたり、広げていたりして、実現(⑧)する		◎友達と互いの考えを認め合い、折り合い、協力しあって「刺激」を受け合いながら(⑩)共に遊びをすすめ、満足感や達成感を感じ(⑭)る		◎自分の意見も出しながら友達の意見を聞き、「協同」して遊びを進める ◎「小学校との共通点」を感じたり、見つけたりして(⑰⑳)小学校に期待をもつ		
思考力を育む 保育者の関わり	◎子どもの思いを感じ取って「共感」し(①)、引き出したり、共に探ったりして興味のあることを見つけ、「期待」をもって生活できるようにする(全) ◎先生も一緒に遊びを楽しみ、子どもが「安心」したり、「信頼関係」を築いたりする(全) ◎子どもの興味のあることや好きなことを取り入れ、(全)好きな遊びを十分に楽しめるようにする			◎相手の思いを代弁し、様々な思いを感じ取る ◎子どもの多様な考えを受け止める ◎子どもの思いに「共感」し(②)、自分で気付いたり(③)、考えたり、友達との関わりをもって共に進めることができ(⑤⑦)るように「見守り」、肯定的に受け止める		◎子どもが困ったり、思いが通らなかったりした際は、互いに(⑪)意見を言い合える機会をもち、自分の思いを言葉にして伝えられるようにする ◎アイデアが実現していけるような方法を先生も共に考えたり、「これまでの経験を生かしたり(⑧⑭⑮⑯)、子ども達のアイデアを広げたり、つなげたり(⑨)して「イメージを共有」(⑫)する		◎意見を聞き合える機会をもち、一人一人の「アイデアを生かして」遊びが展開していくようにしたり(⑰)、自分の思いと共に友達の意見に納得して折り合えるようにしたりする		◎楽しいことも悲しいことも様々な感情を共有することで深めていけるようにする ◎「小学校に安心し、期待」をもてるように、小学校で知っている物や人を見つかけたり、つながったり(⑰⑳)検診・半日入学・交流)する		
思考力を育む 環境構成	◎多様な遊びが実現できるようにこれまでも使用してきた物や遊びに必要な物(①)を準備する ◎遊びをじっくりと楽しめる時間と空間を用意する			◎自分なりにじっくりと試行錯誤し(⑤)たり、工夫したりできるようにする空間や時間を用意する ◎遊びから出た必要な物、本などを準備する(②③))		◎子どもたち自身が環境構成に参画できるような時間と空間を確保する ◎アイデアを共有できるように遊びの場や機会、道具などを準備する(⑦⑧⑨⑪)		◎友達同士で(⑱)様々なアイデアが長期的な視点で実現でき「遊び仲間の拠点」となる場(⑱)や、子どもの時間と空間を確保する		◎クラスなど「集団」で取り組み、自分と友達の成長を感じ、みんなで相談しながら進められる場を用意する。 ◎小学校への期待をもてるような交流の機会をつくる		
子どもの交流	ごしよであおう！ スポーツフェスティバル 秋の御所 あきのあそび 学校は楽しいよの会											

※数字はカリキュラムマネジメントの元となるエピソード番号 点線部分は見直した箇所 □は重要なキーワード

(参考資料2) 御所南小ブロックの架け橋期のカリキュラム

「ひと・もの・ことを大切にしながら未来に輝く子どもの育成」～ 感じ 考え 思考する そして 論理的思考へ～ 御所南小ブロック

共通の視点	小学校1年生											
月	4	5 (合科的)	6	7 (合科的・関連的)	8	9	10	11	12	1	2	3
目指す子どもの姿 遊びや学びのプロセス	感じる つながる 自分から 未来を切りひらく子ども											
	先生や友達との関係を築く											
	知っている友達から輪を広げる											
	小集団の中で安心して自己を発揮する											
小学校の生活科を 中心とした 各教科等の単元構成等	・ <u>知っていること</u> や <u>好きな遊び</u> から始める(①) ・知りたい、見たい、調べたい、確かめたい ・実感の伴った言葉で表す			・分析的に考える(見つける、比べる、例える)(③) ・相手や目的に合わせて表現内容や表現様式を考える			・創造的に考える(試す、見通す、工夫する) ・様々な事象と関連付ける ・ <u>無自覚なものを自覚化</u> する(③)			・ <u>相手意識</u> をもって活動する		
	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけるようにする。 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。											
	思考力を育む 指導者の関わり	・保育者の関わり方を知り、子どもと一緒に遊び、 <u>信頼関係</u> を築く(①) ・やってみたい、できるようになりたいと思えるようにする			・ <u>これまでの経験</u> から <u>解決策を考え</u> たり、友だちと <u>一緒に考え</u> たり、本で調べたりすることができるようにする(②)			・子どもの意見や考えをつなぎ、子どもとともに創造するようにする(②③)			・成長した自分に気付き、今後の自分の成長におもしろいや願いがもてるようにする	
思考力を育む 環境構成	うなずく・共感する・納得する・驚く・広げる・ほめる・伝える〈子どもと共に〉											
	・ <u>ブロック</u> や <u>折り紙</u> 、 <u>向かい合わせの机</u> 、 <u>机の無い広い場所での活動</u> (<u>就学前施設に近い環境</u> 作りで <u>安心感</u> をもち <u>自己発揮</u> できる) ・学習のきっかけ作りとなる掲示 ・?!☆などを使用した板書 ・おもしろい願いがふくらむ学習活動			・ <u>二人組</u> 、 <u>グループ活動</u> ・子どもたちの気付きを <u>視覚的にわかりやすく</u> まとめた板書 ・一つ一つに <u>じっくり</u> と関わったり、 <u>繰り返し</u> 関わったりできるような時間 ・ <u>困りを共有</u> し <u>解決策をみんなで考える</u> 経験(②)			・自分や友達、教師、ものとの関わりの中で、「 <u>気付き</u> → <u>考え</u> → <u>行動する</u> 」ができるような場と時間 ・ <u>試行錯誤</u> したり、友達と考えを深めたりできるような場(③)			・一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付けるような環境		
	人・もの・こととの出会わせ方を工夫する 具体的な体験や活動を行う 子どもの姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる											
子どもの交流				<u>御苑で一緒に遊ぶ(ごしよであおう!)</u>			<u>スポーツフェスティバル一緒にダンス(招待)</u> <u>秋の御苑で一緒に遊ぶ</u> <u>あきのあそびを一緒に楽しむ(オンライン・招待)</u>			<u>学校は楽しいよの会(招待)</u>		

※数字はカリキュラムマネジメントの元となるエピソード番号 点線部分は見直した箇所 □は重要なキーワード

(参考資料3) 下京雅小ブロックの架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラム(5歳児)

は各視点における年度当初の子どもの姿

は各視点における年度末の子どもの姿

下京雅小学校ブロック

共通の視点		5歳児 4月 5月	6月 7月 8月	9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月
ねらい		【新しい環境に安心、年長になった喜びと自覚】 友達と関わって遊ぶ中で、思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむ。 年長児になった喜びを感じ、自覚をもち、生活を進めようとする。	【遊び、友達の広がり、目的の共有】 自分のめあてや友達と共通のめあてをもったり、遊びを進めたりすることを楽しむ。 小学生との交流を通して、小学校への憧れや進学への期待を感じる。		【皆で楽しむ満足感、小学校への期待】 共通の目的をもって協同して遊びを進め、満足感を味わう。 自分や友達の成長を感じ、1年生になる期待をもつ。
内 容		【生活】新しい環境での生活の仕方がわかり、安心して園生活を楽しむ。 【友達】年長児になった自覚をもち、異年齢児とのふれあいや関わりを楽しむ。気の合う友達と思いや考えを伝え合い、共通の目的をもって遊ぶ楽しさを味わう。 友達とルールを考えたり、守ったりしてルールのある遊びを楽しむ。	【生活】自分の思いや考えを言葉で伝え、クラスで話し合い、遊びを進める楽しさを味わう。 【友達】友達と共通のめあてをもち、力を合わせたり、役割を分担したりして遊ぶことを楽しむ。		【生活】これまでの生活を振り返ったり、年中児に生活を引き継いだりして成長を自覚し、自信と期待をもって修了する。 【友達】友達と共通の目的に向かって力を合わせて遊びに取り組み、達成感や充実感を味わう。
連携	園	小学校と就学前施設の担任同士で、小学生との交流について、具体的な計画をする		小学校のフェスティバルや交流活動などに参加し小学生との関わりを楽しむことができるように事前、事後に担任同士で打ち合わせをする。	
	家庭	家庭訪問や懇談会で保護者の思いや子どもの家庭での過ごし方などを把握し、遊びや関わりに生かす。		子ども同士のかかわりの深まりとともに思いのぶつかり合いなどもみられるが、学びや成長につながることを伝え、理解につなげる。	
すすんで学ぶ	幼児	身近な環境に興味をもって関わり、繰り返しやってみようとする	色水などの素材での遊びなどで友達に思いを伝え、繰り返し様々な方法を試しながら遊ぶ。様々な環境に自分からかかわって遊ぶ。思考力の芽生え	どうすればみんなで思いを合わせて遊びを進めていくことができるのか、自分の思いを伝える。道徳性・規範意識の芽生え やりたいことに強い思いをもち、より本物らしくなど、自分のイメージに近づくことができるよう友達と思いや考えを伝え合いながら工夫しようとする。協同性	
	教師	子どもが進める遊びを受け止めながらイメージや思いを実現できるように方向付けや提案をしていく。		自分のめあてをもって遊ぶことができるように思いを確かめたり、励ましたり、認めたりして関わる。	
	環境	今まで経験したことがある材料用具に加え、遊びの様子を見ながら新たなものを考えて出したり、場をつくったりする。		目的をもって製作したり協力して遊んだりできる場や要求に応じられる材料や用具、器具などを用意する。	
楽しくかかわる	幼児	友達や先生、様々な人・もの・ことに関わろうとする	友達と一緒に、互いのしたいことを受け入れながら、遊びを進める。 言葉による伝え合い 動植物の世話など、自然環境にふれ、関わって遊ぶ。自然との関わり・生命尊重	運動会の行事や、交流活動などで関わりをもっている1年生や他学年の小学生、他の就学前施設の友達などに思いを馳せ、心を寄せて遊んだり、楽しさや嬉しさを共有したりする。地域のゲストティーチャーとの関わりを楽しむ。 社会生活との関わり	
	教師	教師と一緒に遊びながら一人一人の興味・関心を捉え、信頼関係を気づいていく。		共通の目的に向かって遊びに取り組みめるよう相談の場をつくったり振り返ったりする時間をもち、それぞれの思いをつないでいく。	
	環境	子ども同士がかかわって自分たちで遊びを進めることができるように遊戯室や園庭・校庭などを積極的に活用する。		1年生に親しみをもち一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、園内外での交流保育の機会を設け、交流を楽しみにすることができるように事前に手紙などをやり取りし、掲示しておく。	
自分でできる	幼児	安心して、自分の思いを十分にこそうとする。	自分の思いだけでなく、友達の思いも受け入れながら遊びを楽しんでいくことに満足感を得る。年少児や年中児に親しみをもって関わる。自立心	運動会の遊びなど継続して遊ぶ中で力を出しきることに満足感を感じ、また、交流など新たな関わりへの広がりを楽しみ、そのことが自信となり、苦手なこともやってみるなど生活を広げる。健康な心と体 自分が実現したことを、友達や小学生に認めてもらうことに喜びを感じたり、実現したいことが達成できた満足感を味わったりする。社会生活との関わり	
	教師	年長児になった喜びに共感し、自分でしようとする姿勢や異年齢児に思いを寄せて自分なりに関わろうとする姿を認める。		たくさんの友達の中で力が発揮できているか、役割分担をしながら遊びを展開できているかを把握し、助言をしたり、認めたりする。	
	環境	年長の自覚がもてるように、担任間で連携して異年齢児との関わりをきっかけをつくる。		体を十分動かして遊ぶ楽しさが味わえるように運動遊具を配置したり、子どもが遊具や用具を自分たちで出し入れしたり、遊びの場をつくったりできるように場を整えたりする。	
個別の支援		友達と関わりをもちにくい子どもには、思いの橋渡しをしたり、代弁したりして関わりを楽しめるようにする。 友達に認められる嬉しさを感じ、関わって遊ぶ楽しさを感じられるよう、友達に認められる機会を設ける。		クラスみんなでの活動に入りにくい子どもには、その子どもがやりたいことや思いを受け止めクラスで共有したり、楽しんでいる様子を見せたりなど、興味をもてるよう関わる。友達だけで遊びや生活を進めにくい時は仲介役として一緒に遊びや生活を共にし、思いや考え、イメージの橋渡しをする。	
				進学への不安を感じる子どもには、これまでの成長を大いに認め自信にするとともに、進学への前向きな言葉をかけ、安心できるよう関わる。	

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(参考資料4) 下京雅小ブロックの架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラム(1年生)

は各視点における年度当初の子どもの姿

は各視点における年度末の子どもの姿

下京雅小学校ブロック

共通の視点		1年生 4月	5月頃	6月	7月頃	9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月
ねらい	内容	【安心】 学校生活に慣れ、安心して登校する。 先生や友達と仲良くなり、自分の学級・学年で安心して過ごす。 先生や友達に親しみを持ち、安心感のある学校生活を過ごす。 就学前施設で身に付けた力を発揮し、自信をもって主体的に生活する。		【成長】 →集団生活のルールが分かり、集団生活に慣れる。 →クラスや学年が自分の居場所となり、安心して過ごす。 →自分のことが自分ででき、仲間と共によりよい学校生活を送る。 →学校生活がほぼ分かり、自信をもって学習や生活に取り組む。		【自立】 →生活の仕方でも分かることが増え、より安心することで関わりを広げる。 →自分のことが自分でできることに自信をもち、新しい環境に自ら働きかけ、関わる。	
		【生活】学校での生活の仕方が分かり、安心して過ごす。(生活・学習・給食・遊び・当番活動・登下校など) 小学校生活の新たなルールが分かり、安心して自分で取り組もうとする。 集団生活のルールが分かり、穏やかな気持ちで過ごすことができる。		→生活の仕方でも分かることが増え、より安心することで関わりを広げる。 →自分のことが自分でできることに自信をもち、新しい環境に自ら働きかけ、関わる。		→自信をもって小学校生活を送る。 ・自らすすんで学ぶ ・みんなと楽しくかかわる ・やれることは自分でできる	
連携	学校	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえる。園で慣れ親しんだ歌や手遊び等を取り入れ、楽しみ、安心し、意欲につなげる。 就学前施設の保育者から情報を得て、指導に生かす。 就学前施設の保育者に小学校での様子(学習・生活)を見てもらい、情報を共有して指導に生かす。 就学前施設の担任と一緒に、交流について具体的な計画をたてる。					次年度の交流について計画をたてる。
	家庭	不安な状況等は早目に伝えてもらうようあらかじめ話しておく。連絡帳を活用したり、直接話したりして、安心してもらう。 ほめ電話(ほめTEL)で、児童の様子を伝えて安心してもらう。					
すすんで学ぶ	児童	身近な環境に興味をもって関わり、試したり考えたりする。	自分の見たい・知りたいところを探検する。 身体や感覚を働かせて、思いきり遊ぶ。 就学前施設での経験を生かして、遊んだり学んだりする。	→学校でのほてな?やふしぎ?を見つける。 →自ら友達や環境に興味をもって関わり、遊んだり勉強したりする。 園児との交流をよりよく工夫する。		→主体的に自己を発揮しながら学びに向かう。	身近な環境に興味や疑問をもち、自ら学び考えようとする。
	教師	幼児期の発達の特徴を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 児童の興味・関心をつかみ、主体的に学習(生活)できるようにする。	→生活科を中心に、授業の流れ(しかけ)を工夫する。 →生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫をする。		→意欲的に遊びや学習に取り組む姿を認め、より主体的な意欲につなげる。		
	環境	学習や生活、遊びのスタイル&ストーリー(生活習慣・学習習慣・遊びの場・給食の準備や片付けなど)を大切に環境や一日の流れをつくる。 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする。(グループ机、広いスペースの活用など)学習に集中できるようにする。(すっきり、はっきり、視覚的)学習のきっかけが生まれるようにする。(しかけ、学びの足跡など)					
楽しくかかわる	児童	さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合う。	知っている友達と安心して関わる。 担任・学年の先生と仲良くなる。 友達と挨拶したり、名前を覚えたり、遊んだりすることを喜ぶ。	→知っている友達から少しずつ友達の輪を広げる。 →少しずつ教師や地域の人も関わり、楽しむ。 園児との交流を思いきり楽しむ。		→友達が安心の基地になり、生活が充実する。 →なかよしの仲間と活発に遊んだり、みんなで勉強したりする。	互いの思いを出し合い、みんなで頑張ろうとする。
	教師	保育者の関わり方を知り、児童と一緒に遊び、信頼関係を築く。 新しい教師や友達、環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、関わる。 園児との楽しい交流を計画する。	→全教職員が関わり、信頼関係を築く。 →友達関係の様子を見て、子ども同士をつなぐ支援をする。 →交流への思いが高まるような活動を考える。(手紙など)		→集団のルールの必要性を伝え、自ら守ろうとする姿を認める。 →みんなと関わり、がんばることの楽しさを感じられるようにする。 →交流での経験を生かして1年生を迎える気持ちが高まるようにする。		
	環境	教師や友達、他学年の児童、地域の人々と関わりがもてるような環境や機会を意図的に設定する。 (全教職員と一緒に楽しむ・温かく見守る・子どもの目線で話を聞く・笑顔で迎えるなど)(他学年児童と集団登校・集会活動・たてわり活動など)(家庭や地域の人々の見守り活動)					
自分でできる	児童	安心感を持ち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮する。	就学前施設でしていた遊びで遊ぶ。 就学前施設での経験を話したり、伝えたりする。 自分でできることは、自分でする。	→少しがんばればできることにチャレンジし、できた喜びを味わう。 →友達のステキを見つけ、伝え合う。 →自分ががんばったことやできるようになったことを考えていく。 園児との交流の中で自分のできることを最後までやり切り、振り返る。		自分の姿を見つめ、頑張りや良さを見つけようとする。	
	教師	幼児期で身に付けた力を発揮できるようにする。 1年生になった喜びを受け止めつつ、安心感がもてるように関わる。	→不安を表す時期の個人差を受け止め、安心できるように関わる。 →自分でできるようになっていく姿を認める。		→単元の終末のふり返りを大切にする。 →できるようになったこと、ついた力を知らせ、認める。		
	環境	見通しをもって生活できるようにする。(1日の流れ・朝の支度の手順・当番などの役割表示)自分で選択して活動できるようにする。(教室内の遊びコーナー・オープンスペースの活用など) 生活上のきまり等を視覚的に理解できるようにする。(道具箱の整理整頓・靴のそろえ方など)					
個別の支援		不安な姿を見せる児童には個別に関わり、安心できるようにする。できるだけ複数の教員を配置し、個人・学級に目が行き届くようにする。 生活の仕方(トイレ・手洗い等)に戸惑う児童には丁寧に関わる。支援が必要な児童には、担任を中心に、複数の教員が関わるようにする。 児童の遊びや人間関係を観察し、うまくかかわれない児童には積極的に声かけをして、一緒にグループに入れるようにする。					

(参考資料5) 竹田小ブロックの架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラム(竹田小ブロック・5歳児) 期待する子ども像「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

竹田小学校ブロック

共通の視点		4・5月	6・7・8月	9・10月	11・12月	1・2・3月		
望ましい 発達の姿		安心・安定感	自信・充実	自己発揮・協同		協同・期待		
		・新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。	・身近な環境に関わり、試したり考えたりして遊ぶ。	・友達関係を深めながら、自分の力を十分に発揮して遊び、生活する。	・友達と共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりする。	・学級全体の課題に取り組み、やり遂げた充実感を味わい、就学への期待をもち、成長を感じる。 ・生活に見通しをもち、自分たちで生活を展開する。		
園・所で 展開される 活動		・生活の場づくり(ロッカー・靴箱など)【言・社】 ・春の自然に触れる(虫探し・草花摘み)【自然】 ・興味をもち考えたり試したりする(ツマゴロビウモンの幼虫などの飼育・一人一鉢栽培)【自然・数】 ・プール【健】 ・ルールのある運動的な遊び(しっぽとり・帽子取り等)【健・道・数】 ・ごっこ遊び【言・協】 ・当番活動(飼育・給食の配膳・昼食時の挨拶)【自然・言・社】	・体を動かす遊び、ルールのある遊び【健・道・言・数・自立】 ・栽培物の収穫と調理、パーティー、お店屋さんなど【自然・協・数・言・社】 ・共同制作、絵画、制作活動等・歌や仲良し遊び、楽器遊びなど【感・クッキング(ご飯・味噌汁)【健】 ・秋の自然を取り入れて遊ぶ【自然】・【思】 ・マラソン【健】・【数】 ・お茶会体験(幼)【社・感】 ・生活発表会(保)劇遊び・和太鼓【協・感・言・感】	・正月の遊び【数・思・道・自】 ・生活発表会(幼)【協・感・言】 ・修了に向けての活動【感・社】(お別れ遠足・記念製作等) ・小学生との交流【社】 ・当番活動の引継ぎ【社・協】				
安心・安定感を育む	つながり	幼児	・年長児になったことを喜び、いろいろな友達や先生と関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ・新しい保育室に慣れる。 ・友達とイメージを膨らませて遊ぶ。	・友達と考えを出し合い、相手の思いを分かろうとし、遊びを進めようとする。 ・友達とイメージを広げながら遊んだり、年下の友達と関わったりすることを楽しむ。 ・自然物と関わり、考えたり、試したりして遊ぶ。	・共通の目的に向かって、一人一人が力を出し、達成する喜びを感じる。 ・いろいろな素材や遊具を工夫して使い、友達と一緒に遊びに使うものをつくったり、かいたりすることを楽しんだり、歌や楽器遊びなどの表現活動を楽しむ。 ・運動会の遊びやお店屋さんなどのごっこ遊びを異年齢で楽しむ。 ・年下の友達など相手の立場に立って言葉をかけて関わろうとする。	・友達と共通のイメージをもち、相談しながら遊びに必要な場を構成したり、必要なものをつくったりする。 ・遊びや生活を振り返り、自分の成長を感じ、さまざまな人への感謝の気持ちをもつ。 ・小学生とにこにこタイムで交流し、就学に期待する。		
		援助	・教師もともに遊び、一人一人の思いを受け止め信頼関係をつくる。一人一人の安定する場所をつくるとともに子ども同士をつないでいく。	・グループやクラスで話し合う機会をもち、教師が橋渡しをしながら、互いの思いや考えを出し合えるようにする。互いに認め合える関係づくり。	・仲間がいるからこそその遊びの楽しさを感じたり、気付いたりできるような言葉をかけて関わる。 ・共通の目的に向かって遊びを進める充実感が味わえるように、友達と考えや思いを出し合う姿を認める。	・一人一人の姿を認め、自分の力を発揮できるように励ます。 ・自分もクラスの仲間であることの喜びを感じたり、友達の良さを認めたりしながら、力を合わせて取り組もうとする姿を認める。		
		環境	・新しい保育室に慣れ、自分たちで生活の場を整える気持ちができるようにする。	・遊びの振り返りでは、ICT機器や写真を活用し、視覚的にイメージが共有できるようにする。	・見通しや期待をもって活動に取り組めるように、視覚的に分かりやすい環境を工夫したり、図を見て話し合ったりする。	・幼保小が互いの様子が分かるようにDVDを活用した交流の機会を設定する。		
			・安定する場所、遊びの拠点となる場所の環境を工夫し、友達とのつながりを感じられるようにする。	・友達がつくったりかいたりしたものを見て、よさに気付き認め合う時間をもつ。				
主体性	幼児	・様々な素材や材料に親しみ、心を開放させて遊ぶ。 ・グループの友達と相談する機会をもち、動物当番や昼食時の当番をする。	・友達と共通のめあてをもって遊びを進めていく楽しさを感じる。 ・ごっこ遊びでは役になりきって、自分で言葉を考えて友達とやりとりをする。	・みんなで考えた遊びや生活のルールを、必要感を感じて守ろうとする。 ・友達と力を合わせる遊び、勝ち負けのある遊びを通して、自分と向き合い葛藤したり、友達と達成感を味わったりする。さまざまな運動遊びに興味をもち意欲的に取り組む。 ・ごっこ遊びなどの取組で、数字・文字・標識などに関心をもち、活動に取り入れる。	・自分の役割を自覚し行動し、役割を果たす喜びを感じる。 ・絵本やお話を聞いてイメージを膨らませ、登場人物になりきって表現したり、気持ちを考えてセリフを言ったりして、友達や先生と劇遊びを楽しむ。			
	援助	・年長児になった喜びに共感し、自ら活動しようとする意欲を受け止める。 ・遊びの継続性を大事にするため、グループで時差をつけて給食を食べる。(保)	・意欲を受け止め、めあてがもてるように提案したり、試したり工夫したりできる場と時間を、時には他学級の担任と連携し確保する。	・一人一人がめあてをもち、意欲的に取り組んでやり遂げるよう、自ら考え、動く姿を見守り必要な時を見極めて援助する。 ・自信がもてるように認め励ます。	・友達と意見がぶつかったときは、納得して折り合うことができるように、子ども同士で解決する姿を見守る。			
	環境	・見通しをもって生活できるように、絵カードを用い、一日の流れを分かりやすく知らせる。 ・友達と関わりが生まれる場所や遊具を選ぶ。	・身近な自然物や生き物と触れ合う機会を多くし、子どもが興味をもったものや疑問に感じたことを追求したり、継続して成長を見たりすることができるようにする。	・戸外や小学校運動場で思い切り体を動かす機会を設ける。 ・季節の行事や自然に親しめるように、自然物や子どもの作品を飾ったりする。 ・保育室の椅子を「5」ずつ置いたりチケットを数えたりするなど、生活の中で「5」の概念や「1対1対応」を意識できるようにする。	・園行事など予定をカレンダーに書いたり「あと何日」と数えたりして、主体的・意欲的に生活できるようにする。			
支援・連携	家庭	・登降園・所時に家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりして、保護者との信頼関係をつくる。日々の子どもの姿や活動のねらいをホームページや園だよりなどで伝え、ともに成長を喜ぶ。 ・個人懇談で家庭の背景を知り、保護者が必要な支援を知る。・活動のねらいや子どもの様子、連絡事項を個別に、また具体的に知らせる。 ・学級懇談会で園の教育方針や学級経営について伝える。 ・展示食とレシピを展示し、家庭でもいろいろな食材に触れられるようにする。 ・就学支援シート説明会を行い、保護者が安心して進学について考えられるようにする。 ・弁当箱をクロスに包む。 ・嫌いなものも少しは食べようとする。				・お手伝い活動(調理、布団敷き)をする。	・気温に合わせて、自分で服装の調整をする。 ・薄着で過ごす。 ・暑い時はシャワーを浴びたり汗を拭いたりする。	・学級懇談会で子どもたちの成長の姿を伝え、保護者が安心して就学準備をできるようにする。 ・生活習慣の自立について保護者と確認し、小学校生活での戸惑いを少なくできるよう、家庭での対応の仕方など保護者と連携する。
	幼保小	・入学当初の授業参観に参加し、1年生の様子を知る。 ・授業参観や保育参観を行い、それぞれの教育について知る。	・幼保で顔合わせを行い、新しい友達を知る。 ・砂場の交流では事前にねらいと環境について共有する。交流しながら迷いがあれば、確認し合う。	・学校で交流したり、運動場で走ったりして、学校に親しみをもつ。	・小学校の行事に参加し、ともに活動し、いろいろな友達や先生と関わることを楽しんだり、幼保小の一体感を感じたりする。 ・運動会後の交流保育では事前にねらいと環境、司会担当など進め方について話し合う。事後に育ちや改善点について出し合い次年度につなげる。	・小学校のにこにこタイムに参加し、新しい友達や生活の仕方を知ったりして、学校生活に期待をもつ。		
個への支援		・学級全体の活動では、全員そろってから、全体への話を担任から聞き、その後個別にその内容を伝える。	・ごっこ遊びなど参加しにくい子どもには、役割や言葉などをはっきりさせて、加配教員と連携して参加しやすい援助をする。	・遊びのルールを理解できにくい子どもには、図を用いるなど視覚的に説明したり、その場で伝えたりする。 ・劇遊びでは参加しにくい子どもが参加しやすい場面を作り、ストーリーを子どもと考え創作する。	・就学への不安感をもつ子どもには、遊びや生活で自信をもっている場面を見つけ認め、自分の良さに気づくことができるように関わる。 DVD視聴で学校生活の様子を知り、学級全員で期待感が共有できるようにする。			

*「園・所で展開される活動」内に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を略して入れている。【健】:健康な心と体【自立】:自立心【協】:協同性【道】:道徳性・規範意識の芽生え【社】:社会生活との関わり【思】:思考力の芽生え【自然】:自然との関わり・生命尊重【数】:数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚【言】:言葉による伝え合い【感】:豊かな感性と表現「支援・連携」の「家庭」の四角の枠は家庭と連携して身につけたい生活習慣、経験。「幼保小」の四角の枠は経験させたい内容

(参考資料6) 竹田小ブロックの架け橋期のカリキュラム

架け橋のカリキュラム(竹田小ブロック・1年生) 期待する子ども像「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

竹田小学校ブロック

共通の視点		4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1・2月	3月										
望ましい 発達の姿		安心・安定感		安心・安定感・仲間づくり・達成感		自立・充実・協力		自立・充実・協力		協同・自信・期待											
		・新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。		・身近な環境と関わり楽しく安心して遊んだり生活したりする。		・身近な環境や教材と関わりを深め、気持ちの自己調整をしながら、学校生活を送る。		・クラスや学年共通の目的に向けて学習・活動に協力しながら取り組む。		・自分たちの生活や学習を振り返り、さらに成長するために意欲的に活動する。											
小学校の生活科を中心とした各教科等の単元名や活動		・学校生活の仕方を知る。 ・学校生活・集団生活のルールやマナーを知る。		・いちねんせいがはじまるよ ・なかよしっぱいがっこうたんけん ・一年生を迎える会		・学校生活の仕方に慣れる。 ・さいてほしいなわたしのはな		・なつとともだち ・水遊び ・わくわくプラン		・生活調べ ・わくわくプラン ・いきものとなかよし		・体育発表会 ・あきとともだち		・1・2年合同校外学習 ・音楽発表会		・みんなのにこにこ大さくせん ・キズナ作文		・ふゆとともだち ・もうすぐみんな2年生 ・TAKEDAフレンドフォーラム		・にこにこタイム	
安心・安定感を育む	つながり	児童	・友達にあいざつしたり自己紹介をしたりし、お互いに興味を持つ。 ・幼稚園や保育所で経験した遊びを一緒に楽しむ。		・気の合う友達と仲良く遊ぶ。 ・クラスの友だちと一緒に学習し、ペアやグループで達成感や喜びを共有する。 ・クイズを出し合ったりインタビューしたり、一方的ではない交流を楽しむ。		・学年の友達と仲良く学習したり遊んだりする。 ・相手意識をもって学習・活動に取り組む。 ・友達の良いところを見つける。		・上級生と仲良く遊んだり学習の交流をしたりする。 ・クラスや学年の友達と達成感や喜びを共有する。 ・家族や家庭における自分について考える。		・友達同士でこの1年間を振り返り、自分や友達の成長に気づき、進級への期待を高める。 ・友達と協力してにこにこタイムの活動を考え、準備する。										
		支援	・家庭や幼稚園・保育所での様子を知り、遊びや会話を通して信頼関係を築く。 ・笑顔でゆっくりと肯定的な言葉で話し、あたたかい関わり方を心がける。 ・にこにこルームで、安心して遊んだり楽しく歌ったりする中で、教職員や友達とつながりをもてるようにする。		・担任以外の教職員もあたたかく積極的に関わり信頼関係を築く。 ・子ども同士をつなぐ支援を行う。 ・集団で遊んだり学習したりする楽しさを感じられるようにする。		・相手意識がもてるような声かけをする。 ・児童の良いところを積極的に取り上げ、褒め、広めるようにする。 ・クラスや学年などの他とのつながりを大切にできるように集団の高まりやいいところを積極的に取り上げ、褒める。		・お手本にしてほしい上級生の言動に注目させる。 ・家庭生活に関わる活動を設定する。 ・学校外の人たちとの関わりにも目を向け、公共のルールやマナーを意識できるようにする。		・自分自身や友達の成長が実感できるような活動を設定する。 ・自信をもち、進級への期待が高まるように、新1年生の存在に気付けるようにする。										
		環境	・学校教育目標や学級目標を伝える。 ・幼稚園や保育所での経験を生かした学習や遊びの場を設定する。 ・全面量数きのにこにこルームを1年教室の隣に設定し、遊具や絵本等を置き、安心して遊べる環境を作る。		・学習の中に共同学習・ペア学習の場を設定する。		・見つけた友達の良いところを広げられるような場を設定する。 ・学習や活動のめあて・振り返りを提示する。 ・学習・活動の振り返りを提示し共有する。		・他とのつながりが感じられるような写真や絵を掲示する。		・友達の頑張っていることが伝わるように、子どもの成果物を掲示しておく。										
	主体性	児童	・幼稚園や保育所での経験を生かし、生活・学習を進める。 ・担任に自分の思いを伝える。		・自分の読みたい本を探し、読書を進める。 ・ペアで自分の思いを伝え合う。 ・色を塗るなどの簡単な形で学習・活動の振り返りをする。		・健康的な生活を意識する。 ・グループで自分の思いを伝え合う。		・上級生に自分の思いや考えを伝えながら学習を進める。 ・ペアやグループでの活動を楽しみ、クラスや友達のためにできることを考える。		・これまでの学習経験を生かし、自分の思いや考えを表現しつつ、比較をしたり、違いを感じたりしながら学習を進める。										
		支援	・児童の特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 ・児童の実態に合わせて、柔軟に時間割を組む。 ・ストーリー性をもたせるなどの工夫をすることでスムーズに取り組めるようにする。		・生活や学習の中に自分で選択する場を設定する。 ・子どもの意識や思いの流れを大切に授業を構成する。 ・できるようになったことを実感できるような声かけやしほみを意識して行う。		・早寝・早起き・あさごはんなどの健康的な生活の重要さを伝える。 ・自分一人でも進められるような学習・活動方法を取り入れる。		・上級生は優しく頼りになる存在であることを伝える。 ・ペアやグループでの活動など友達と関わりながら学ぶ機会を多く取り入れる。 ・運動会や音楽発表会の行事を通して達成感がもてるようにする。		・もうすぐ2年生に進級することや新1年生のよき見本となっていきたいことを伝える。 ・入学からこれまで上級生や周囲の大人が支えてくれたことに気付けるようにする。										
		環境	・絵や写真などの視覚的な指示を使って安心感をもてるような場を設定する。 ・一日の生活や学習の基本的な流れを確立する。 ・約束や進め方などは伝え、共有した後に自分で確認できるように掲示等の工夫を行う。		・学習・活動に関連する並行読書を用意する。 ・主体性を高め合える・刺激し合えるような学習形態にする。 ・自分の〇〇という思いで意欲的にかかわったり扱ったりできるように、個別の場所・物を用意する。		・学習や活動にめあてをもって取り組む。 ・学習・活動後に感じたことを言葉で記録する。 ・いろいろな物に興味・関心が持てるように可能な限り多種類の教材等を用意する。 ・児童自身で学習・活動できるように動画教材等を準備する。		・意欲が高まるような教材を作成したり、幼稚園から借りたりして用意する。 ・係活動や当番活動について話し合う機会を増やす。		・これまでの学習の足跡がわかる学習カード等をすぐに見ることができるようしておく。										
	支援・連携	家庭	・見通しをもってもらえるように、前もって学習や活動についての連絡をしておく。 ・児童の情報を家庭から得たり、学校は子どものよいところを知っていることを発信したりする。 ・保護者に連絡や伝えたいことがある場合は、積極的に家庭訪問する。		・家庭学習や読書等、家庭にも協力して取り組んでももらえるように学級通信等で働きかける。 ・個人懇談会で子どものよいところや頑張り等を伝え、今後につなげるようにする。		・生活リズムを把握し、健康的な生活を意識してもらう。 ・授業参観で子どもやクラスの様子を知ってもらい、共に健やかな成長を考え見守ってもらえるようにする。		・個人懇談会でよさや頑張り、課題を共有する。 ・子どもがお家の人のために立てたにこにこ大作戦を温かく見守ったり、コメントしたりして家庭でのつながりを深めてもらえるようにする。		・半日入学・入学説明会で、新入学予定児童が期待と安心感をもって入学できるように工夫する。 ・子どもたちの成長が伝わる授業参観・懇談会を設定し、2年生への見通しを持てるようにする。										
		幼保小	・幼保小連絡会で新入学児童の情報を交流する。 ・幼保の教員・保育者の顔合わせをする。 ・5歳児の担任だった幼保の先生等に授業参観してもらい、1年生の様子を知ってもらう。 ・にこにこタイム「砂場交流」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。		・幼稚園参観や保育所参観で、保育や園児の様子を知るとともに、園児に小学校教員の顔を知ってもらう。 ・幼保小連絡会で情報交換を行う。 ・にこにこタイム「水遊び」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。		・幼保小連絡会で情報交換を行う。 ・幼稚園・保育所の運動会を小学校の校長や教員が見学する。 ・ミニ運動会（幼保小）を実施し、子ども同士が交流する。		・にこにこタイム「秋見つけ」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。 ・ぐんぐん広場（幼保）を実施し、交流する。 ・小学校の音楽発表会へ幼稚園・保育所の園児を招待する。		・新入学予定児童や家庭の情報を得る。 ・幼稚園や保育所で経験していることについて知り、次年度の計画を立てる。 ・授業参観にて子どもの1年間の成長を知ってもらう。 ・にこにこタイムで、入学予定の児童に、小学校を紹介する発表会を実施する。										
	個への支援		・一人一人の思いや背景、内面をしっかりと見つけ、その不安や緊張感を理解し、様々な子どもの姿を受け入れる。 ・困っている児童の家庭に連絡・相談し、次につなげる。 ・困りが予想される家庭に前もって連絡をし、家庭での協力を得る。		・疑問や不安の出し方を伝える。 ・できていないことや困っていることがあっても「〇〇さんがいるだけで、学校に来てくれるだけで花丸!」ということを伝える。 ・自分の姿を振り返り、次につなげる。困った時は困ったと自分で言うようにする。		・生活の乱れから遅刻しがちな児童等の家庭へは、生活調べの取組前後に連絡をし、意識的に進めてもらうようにする。		・進んで取り組んでいる姿を言葉で伝え、達成感を高められるようにする。		・成長した姿を喜び、共有し、次年度への期待感を高められるようにする。										